

cic

# GLOBAL IMPACT REPORT

時の要求に応え

未来を築きます

2020



cic

↑  
cic

cic



# 目次

- 4** | 創業者からのメッセージ
- 6** | 数字で見るCIC
- 8** | 時代を先駆ける安全なワークスペース
- 10** | CIC Healthの創設
- 12** | 入居企業へのサポート
- 18** | グローバルな成長:CIC Warsaw
- 22** | グローバルな成長:CIC Tokyo
- 26** | グローバルな成長:国境を越えた協力体制
- 28** | バーチャル空間での集い
- 32** | 社会を変えていくために
- 36** | 我々のコミュニティメンバーが生み出す社会的インパクト

# 創業者

## からのメッセージ



新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活や仕事に直接的にも間接的にも大きな影響を及ぼしました。そして、私たち誰もがこの障害を乗り越え、力強く生き抜くために、これまでにない方法を見つけ出さなければなりませんでした。

このレポートをお読みの皆さまへ、

新型コロナウイルスの蔓延で、想像したこともなかったような形で世界中が変化し始めて一年が経ちました。パンデミックにより多くの人々が命を落とし、また住む場所を失うなど、精神的・経済的な打撃を被っています。しかし、同時にパンデミックに対して、イノベーションの力で立ち向かう企業が多かったのも事実です。そういった変革の一端をご紹介できればという思いで、このレポートをリリースいたしました。

私たちが21年前に最初のイノベーションセンターを開設したのは、単純な理由からでした。社会に役立つ製品やサービスを思いついた起業家たちが、そのアイデアを仲間と一緒に素早く実現させていけるようにしたかったのです。イノベーターは常に先の見えない状態で仕事をしています。だからこそ、この一年のように変化の激しいときに、イノベーターは先頭に立ち新たにチャレンジしていくのだとも言えます。2020年を生き抜いた私たちに共通しているのは、未知に向かって挑戦してきたということです。新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活や仕事に、直接的にも間接的にも大きく影響を及ぼし、私たち誰もがこの新しい障害を乗り越え、力強く生き抜くために、これまでにない方法を見つけ出さなければなりませんでした。

新型コロナウイルスの問題が誰もの心に重くのしかかる一方で、他のさまざまな課題も浮き彫りになりました。平等や多様性、自律の権利や民主主義、資源へのアクセスと平和を求める運動が世界中で巻き起こるのを目の当たりにして、これらの課題に緊急に取り組む必要性と責任を真摯に受け止めています。

CICでは、私たちにできることのひとつとして、「CIC Health(CICヘルス)」という新たな事業を始めました。CIC Healthはコロナ禍の真ただ中で生まれた事業です。この時期は私たちが運営するイノベーションセンターの中で活動をする入居者の数が少なかったため、CICの従業員には新たなミッションに注力する余力がありました。そんな状況のなかで、私たちが得意とするロジスティクスやオペレーションの知識を利用し、地域の人々や学校などに新型コロナウイルス検査を安価に提供することができると気づいたのです。CIC Healthは、2020年秋のなかばには、学校その他の機関にコロナ検査を提供する事業者としてはアメリカ合衆国北東部の6州であるニューイングランド地方最大になっていたと思います。その後、ニーズの大きいワクチン接種サービスに事業を拡げ、同地方で最大のワクチン接種事業者となりました。私たちはこの重要なサービスを提供できたことを誇りに思っています。同時に、CICはこれからもイノベーションを一般の人々に直接届けるための方法を見つけ、長期的に事業を進展させていけると気づきました。これは、私たちにとってエキサイティングな展開でした。

さらに、CICは、2020年のこのような状況下でも、7つの都市のイノベーションセンター全ての運営を継続できただけでなく、新たにワルシャワと東京にイノベーションセンターを開設しました。これにより、CICが運営するシェアオフィスとイベントスペースの総面積は105,918m<sup>2</sup>となりました。コロナ禍にもかかわらず運営スタッフが力を発揮でき、センターの運営を無事に進められたのは、地域のコミュニティに根を張った活動を続けてきたからです。私たちはCICの創設以来、人々が必要とするサービスをコミュニティに根差した形で提供することが重要だと信じてきましたが、今回それが実証されたと感じています。事業がますます成長し、世界中のイノベーターに支援を提供することができるのは嬉しい限りです。

CICと道を共にしてきてくださった皆さまに深くお礼申し上げます。2020年という年を感謝の気持ちをこめて振り返るとともに、CICのイノベーションセンター内でこれまで以上に活発に活動できるようになる日を心待ちにしています。また、このレポートをお読みの皆さまのご健康を心よりお祈りするとともに、皆さまが、コロナ禍での経験をもとにコミュニティをますます発展させ、パンデミックを乗り切っていかれることを心より願っています。これからも、イノベーションを通じてより良い世界を実現できる(fix the world through innovation)よう、共に歩んでいきましょう。

**ティム・ロウ(Tim Rowe)**  
CIC創業者兼CEO

# 数字で見る CIC

私たちは、世の中を変えようとする起業家を支える  
イノベーション・コミュニティを築いています。

3 大陸

9 都市

13 センター

9 VENTURE CAFÉS



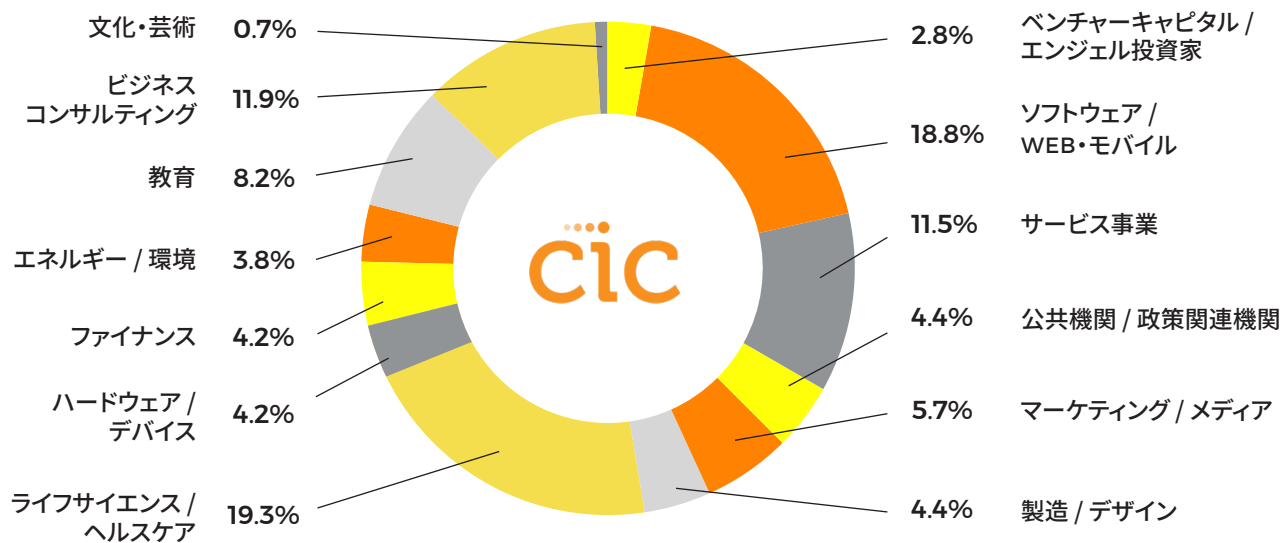
- CIC + VENTURE CAFÉ
- VENTURE CAFÉ ONLY

86,192  
m<sup>2</sup>

+ 19,727  
m<sup>2</sup>

昨年、CIC TokyoとCIC Warsawがオープンした結果、CICが世界で運営するスペースの総面積は19,727 m<sup>2</sup>増え、2020年末で105,918m<sup>2</sup>となりました。

## 2020年入居企業の業界別内訳



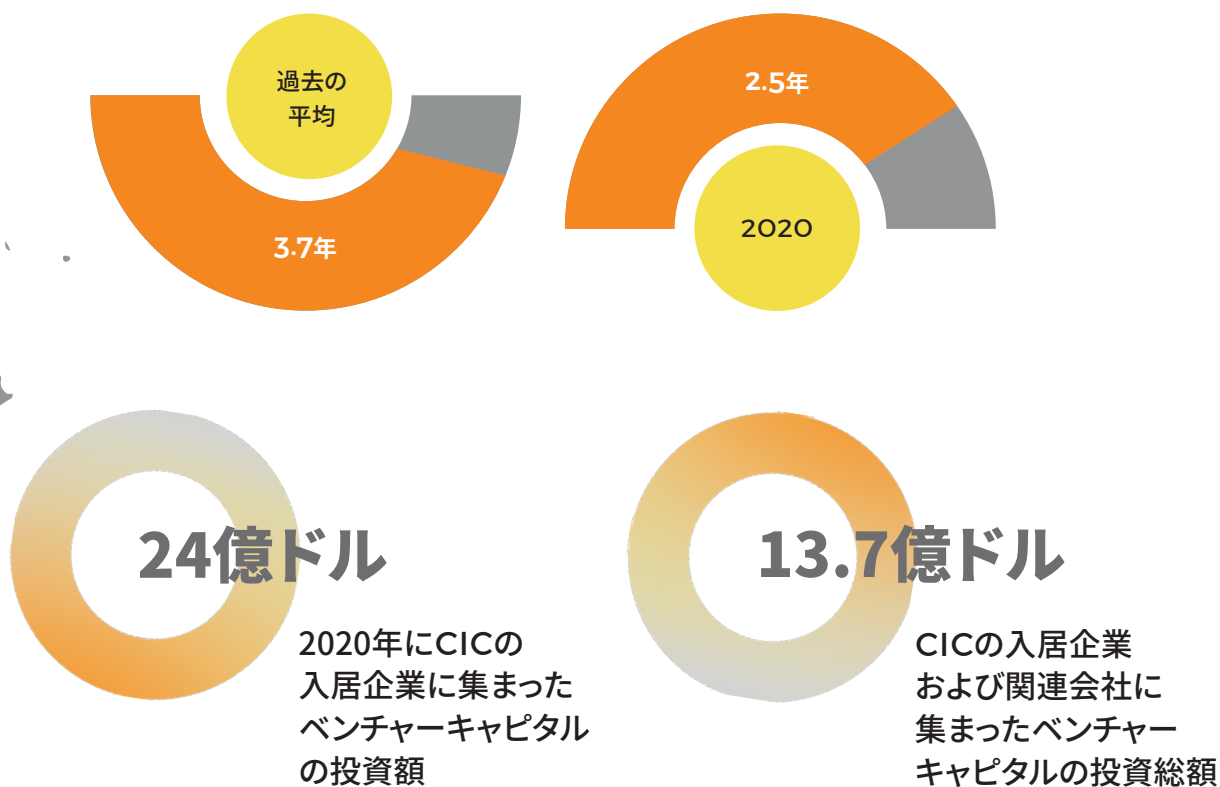
**2,875**

2020年の入居企業・組織数

**7,589**

これまでの全入居企業・組織数

## 入居企業・組織の平均入居期間



# 時代を先駆ける

## 安全なワークスペース

パンデミックでオフィスの定義や役割が問われるなか、CICでは従来の概念にとらわれない新たな「働く環境」を創りだしています。イノベーションを取り込みながら、最新の研究や健康の指針に基づいたスペースです。

2020年はリモートワークに切り替えた入居企業が多かった一方、CICのスペースで主な業務を引き続き行う企業も少なくありませんでした。細心の注意を払ったインフラのリニューアルや安全対策の徹底により、センターの利用者の皆さまに安心して快適に過ごしていただけるスペースを提供し続けることができました。

### ソーシャルディスタンス

十分なソーシャルディスタンスが取れるようにするため、オフィスや会議室、共用スペースにあるデスクや椅子の間を広げたレイアウトに変更し、あえて利用可能人数を減らしました。

### 体調・体温のチェック

センターの利用者やゲストには、センターに来ていただく前にアプリを使ってご自分で体調をチェックしていただきました。また、センターの受付ではタッチレスの検温計を使うことで入館手続きを円滑に行い、安全性を一層強化することができました。

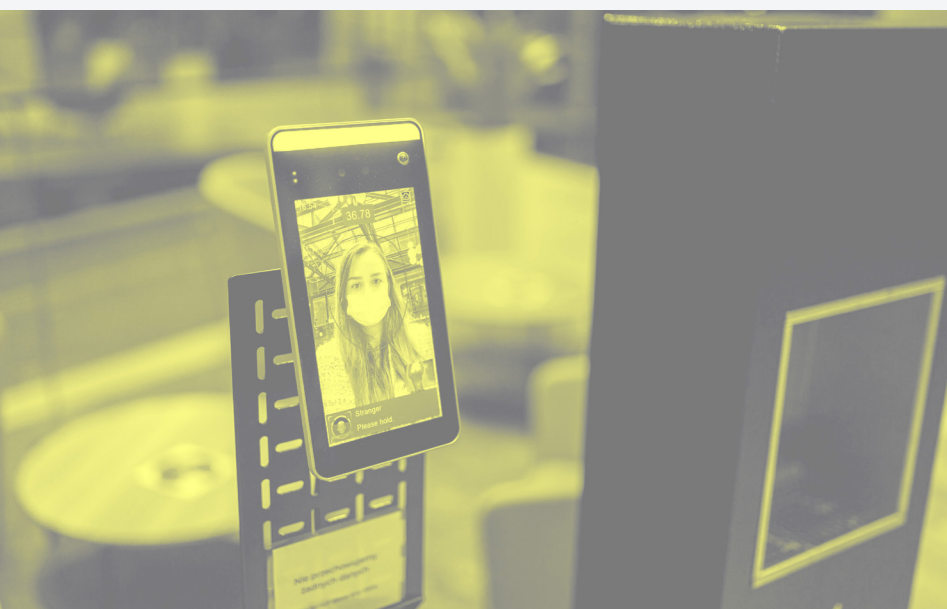
### センター内での検査提供

最新のリサーチの結果、新型コロナウイルスは物の表面を触っての感染のみでなく、飛沫感染をすることが明らかになり始めたため、引き続きマスクの着用とソーシャルディスタンスを強化することに加え、センター内での新型コロナウイルス検査の提供を開始しました。米国内のセンターでは、2020年8月より入居企業の皆さまに任意で受けていただけるPCR検査を提供しました。また秋からは、無料で毎週の集団検査に参加することも可能となっています。



## バーチャル・コンシェルジュ

CICのバーチャル・コンシェルジュを通しセンターの新規利用者やゲストをお迎えすることで、対面せずとも業界でトップレベルを誇るサービスを維持することができました。



## タッチレスな環境づくり

CICのセンターでは、パンデミックが始まってすぐに、ドアを足で引いて開けるフックの設置や人が触れる部分の抗菌加工など、タッチレスで安全に過ごせる工夫を施しています。



## 衛生用品の供給

センター内の各所に自由に使っていただけるマスクや手袋、消毒剤などを常備する「ウェルネス・ステーション」を設置しています。

## わかりやすい掲示

センター中に表示やメッセージをわかりやすく掲示することで、利用者の皆さまにとって馴染みやすい環境を作っています。

# CIC HEALTHの創設

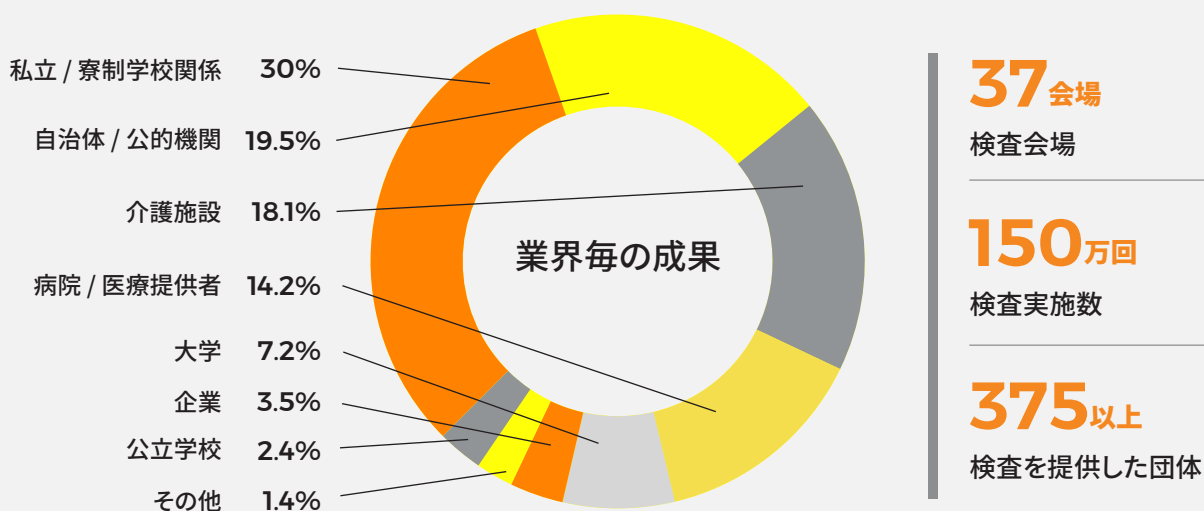
## 新型コロナウイルス検査とワクチン投与

パンデミックが始まった時、私たちは「イノベーティブな運営でこの危機を乗り越えるしかない」と考えました。すぐに入居企業の皆様と積極的に連絡を取り合い、定期的な新型コロナウイルス検査をいち早く取り入れて、全米屈指の安全なワークスペースづくりに努めました。一刻も早くセンター内で仕事を再開したいという入居企業の声に応え、その願いが叶う環境を作ろうと思ったのです。

そこでCICは、マサチューセッツ工科大学(MIT)のブロードインスティテュートやハーバード大学といったCLIA(Clinical Laboratory Improvement Amendments; 臨床検査改善法)に基づく認証を受けている検査ラボと手を結び、入居企業へのウイルス検出検査の提供を米国内6都市全てのセンターで始めました。こうした素早い対応が功を奏し、2020年も引き続きテナントに恵まれ、スタートアップを中心としたワークプレイスとして活動を続けることができました。

また、このCICのコワーキングスペースでの新型コロナウイルス検査提供の成功が、CIC Healthという新事業の創設のきっかけとなりました。検査ラボに検査数をこなす力はあるものの、ラボと検査を希望する人たちをうまく結び付ける方法がないことに気づいた私たちは、双方を繋ぐ仕組みを作って、誰もが苦勞せずに素早く検査を受けられるようにしようと考えたのです。

### 数字で見る検査サービス





## 一刻も早く仕事を再開したいという入居企業の声に応えたかった。

2020年の夏のローンチ後、CIC Healthは米国内の8つの検査ラボと手を組んで、一般市民がアクセスできる検査会場を37か所に開設しました。これまでニューイングランド地方だけでも幼稚園、小中学校、高校、大学やヘルスケア施設を含む375の組織、および多くの個人の方々にサービスを提供しました。検査実施数は150万回以上にのぼっています。CIC Healthは今や全米で最も大きな新型コロナウイルス検査事業者のひとつとなり、幼稚園から大学まで多くの教育機関で検査サービスを提供しています。



大規模集団  
ワクチン接種センター



ワクチン接種数  
(本レポートリリース時)

● フェンウェイパーク球場

● ジレットスタジアム

● レジャー・ルイス競技センター

● ハインズ・コンベンションセンター



## 入居企業へのサポート

CICは創設以来、スタートアップや成長企業へ直接サポートを提供することをミッションとしてきました。2020年はこれまでで最もこのミッションを実感した年でした。今まで経験したことのないようなパンデミックに素早く対応し、入居企業がこの困難な時期を乗り越えられるよう支援に徹しました。

CICのイノベーションセンターは、フロア面積あたりのスタッフ数は業界でトップレベルですが、昨年は通常のシェアオフィスに比べて3倍となりました。私たちはこのように入居企業との関わりに重視したサービスモデルを用いているため、入居企業のニーズにも素早く対応し、それぞれの状況に適したソリューションを提供することができたのです。

## 新しいマーケットプレイスの創設

緊急事態宣言でオフィスなどが突然閉鎖になったため、リモートワークに切り替えて仕事のペースを落とさざるを得ない企業も少なくありませんでした。そこで、CICでは余力のあるスタッフが入居企業の業務を手伝うマッチングの仕組みを始めました。

「CICのエズラと仕事ができて本当に良かった。彼のやる気に溢れた姿勢で、会話を楽しみながら、クリエイティブで当社らしいウェブサイトを作ることができました！」

CICがこのような機会を設けてくれたことに感謝しています。この大変な時期に、本当に助かりました。」

### — Cambridge Energy Advisors



## リモートラーニング

教育機関が授業を一部または全面的にリモート化したことにより、多くのご家庭が働きながらお子さんのオンライン学習の面倒もみなければならない状況下に置かれました。こうしたご家族の負担を軽減するために、私たちはCICのコミュニティのメンバーの協力を得て、ロックダウンで使われていないオフィスを子供たちのオンライン学習のために使ってもらえるように提供しました。

### オンデマンドのウェブサイトのデザイン

CIC Philadelphiaでは、チームのメンバーがグラフィックデザインのスキルを活かして、入居企業のウェブサイト創りを支援しました。また、セントルイスでは、CIC@CETのチームのメンバーがコワーキングスペースを利用するCambridge Energy Advisorsの情報サイトの作成をお手伝いしました。

### ニーズに合ったオフィスプラン

CICのマサチューセッツのデザインチームは、入居企業が専用のスペース内で、ソーシャルディスタンスが保てるレイアウト作りを支援しました。



## ビジネスを築き人と繋がる手段

CICには、起業家や成長企業が必要とするリソースが集約されています。各センターは、地域のイノベーション・コミュニティへの参加を希望する人々や企業が集う、交流の場となっています。昨年は、イノベーターが有意義な協働関係をつくり、効果的に製品開発を行っていただけるよう、CICを通じてアクセスできるリソースを更に増やしました。

### バーチャルイベントのサポート

イベントというイベントがことごとくバーチャル開催となった昨年、CIC Eventsは、イベント企画者に向けたコンテンツや、ライブストリームに必要なデバイスキット、移動可能なプロダクションスタジオといったリソースを提供するオンライン・サービスを開始しました。

### ポッドキャスト・スタジオ

2020年は、あらゆる企業や人々がデジタルを介してオーディエンスと繋がろうと試み始めた年でした。こうした動きに対応し、CICでは複数のセンターにポッドキャスト用の設備を整えました。CIC ProvidenceのCreator's StudioやCIC WarsawのVoiceHouse Podcast Studioなどがその一例で、入居企業が質の高いポッドキャスト番組を制作し世界中のオーディエンスと繋がるために必要な道具やスペースを提供しています。



## デジタル・ファブリケーション・ラボ

---

CIC Warsawに新規オープンした3Dプリンティングのスタジオ「Prototyping Terrace」は、3Dプロトタイピング技術を専門とする地元企業「Future Print」により運営されています。同スタジオには3Dスキャナー1台と3Dプリンター20台が備わっています。Future Printの経験豊かなスタッフが、CICの入居企業プロジェクトを最初から最後まで支援してくれます。また、CICの入居企業はFuture Printのサービスを特別料金で利用できるため、失敗を恐れずにイノベーションに取り組めます。

また、CIC Warsawには新設のメーカーズスペースが備わっており、地域の人々が3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタルファブリケーション用の装置にアクセスできる、新しいスポットとなっています。一方で、Fab@CICと呼ばれるボストンのメーカーズスペースは、コロナ感染に健康リスクの高いメンバーに無料配布する个人防护具を製造する場所として、パンデミック開始直後に用途を変えました。その後、製造装置はCIC Cambridgeに移設されています。

## ウェットラボ用のスペース

---

ロックダウンによるオフィス封鎖中も運営を続けるバイオテック企業が多かった中、CICが米国内で運営するウェットラボ（バイオ研究用の実験施設）が、こうした企業の活動に極めて重要な役割を果たしました。





# 新しいメンバーシップ・プラン

起業家やイノベーション企業は、人と活気にあふれ、直に人と触れ合いながら協働できるワークスペースを求めています。しかし人同士の接触がコロナ感染の原因となることから、パンデミック中はオフィスの環境を変化させる必要がありました。CICでは、入居企業のニーズの変化を認識し、新たな需要を満たすサービスやツール、そして従来とは異なる交流方法を提供する必要があると考えました。

**2020年は、入居企業がリモートワークをどう成り立たせるかを学んだ年でした。しかし、対面での繋がりやそこから得られる創造性はやはりかけがえのないものと実感し、刺激ある交流を求める声が多く上がっていました。**

CICでは、創設当時から運営理念の核となってきた「入居企業への豊富な選択肢と柔軟な利用・契約の提供」に、これまで以上に徹することにしました。従来の月極契約を維持する一方で、米国ではメンバーのニーズに合わせた3種類のメンバーシップ・プランを導入しました。

**CICの提供する  
コロナ禍における豊富で  
柔軟なオフィスプラン**

## REMOTE+

柔軟なリモートワークを取り入れている入居企業チームに向けて作られたプランです。入居企業メンバーが交代でオフィスを使うことができます。このプランの導入により、コロナ禍前ほど大きなスペースを必要としなくなった入居企業が、その分コストを削減してオフィスを使えるようになりました。

## TEAM DAY

Team Dayは、日頃はリモートで働いているけれど、安全性が確保できるのであればたまには皆でオフィスに集まって協働したいという、人数が多めのチームに向けて用意されたプランです。このプランを使うことによって、専用のオフィススペースを持たずとも、チームとして1週間もしくは1か月に一度の割合でCIC内で集まることができます。

## MAIL PLUS

リモートで働く起業家も、会社宛ての郵便物を受け取るには物理的な住所が必要です。また、彼らにとって、活気あるイノベーション・コミュニティと繋がっていることはビジネスの成功のカギともなります。Mail Plusは、こうした起業家に向けたサービスです。CICの郵便サービスだけでなく、入居企業用のポータルを介してCICのグローバルネットワークにアクセスし、充実したプログラムやメンバーリストを利用できます。また、バーチャルフォーラムに求人広告や企業ニュースを投稿することも可能です。

# グローバルな成長： CIC WARSAW



CIC Warsawは、2020年6月にCICにとって8つ目の都市であるワルシャワにオープンしました。中央ヨーロッパでは初のCICセンターです。ワルシャワの中心地でスタートアップ、成長中の企業やイノベーション志向の企業が一堂に会し、共に社会のためになる取り組みを進めていく場となっています。

2020年末の時点ではEU(欧州連合)で最も高いビルであるVarso Tower内にある8,500 m<sup>2</sup>に及ぶイノベーションセンターには、テック、ライフサイエンス、その他の業界のイノベーターを支える様々な組織が入居しています。





## イノベーション・キャンパス

**Venture Café Warsaw:** 非営利組織であり、CIC Warsawの姉妹団体でもあるVenture Café Warsawは、ワルシャワのイノベーション・エコシステムを構成するさまざまな組織を繋ぐパイプ役を担っています。

ワルシャワの居住者でも、新たに訪問する人でも、誰もが地域のイノベーション・コミュニティに容易に入りこんでいけるようにするため、参加者に寄り添ったイベントプログラムやイノベーション支援を提供しています。イノベーター同士を繋ぎ、彼らがアイデアを実現する後押しをすることで、最終的にはワルシャワひいてはポーランドの経済発展に貢献しています。

**District Hall:** ワルシャワ市民であれば誰でも参加できるソーシャル・イノベーションのプラットフォームです。District Hallにあるコワーキングの共用ゾーンや、カフェスペース、カジュアルなミーティング用のスペースなどを自由に使うことができます。

**Trend House:** 起業家、研究者や大企業の代表者などからなる、選抜されたメンバーのための特別なスペースです。ただスペースを提供するだけでなく、いろいろな学習法を組み合わせた本格的な成長プログラムも提供しています。





## CIC WARSAWハイライト

### 産業特化の イノベーション・ハブ

アメリカ合衆国内のCICで成功した特定の産業に特化したイノベーション・コミュニティ創りの取り組みをもとに、CIC Warsawでは宇宙テクノロジー、IoT(モノのインターネット)、不動産テックという3つの領域で産業特化のイノベーション・ハブ(Specialized industry hubs)を形成しました。このイノベーション・ハブではそれぞれのテーマのもとで参画する企業の成長を加速します。

ポーランドのイノベーション・エコシステムは競争色の強いビジネスカルチャーを特徴としています。そのため、支援と協働のためのネットワークを構築し、企業が少ないリスクでイノベーションに向けた活動を行える環境を整えることが、とりわけ重要となっています。こうしたネットワークを通じて、スケールアップしようとしているスタートアップ、メンターや投資家と有意義な形で繋がっていきます。

こうしたワルシャワを拠点としたイノベーション・ハブでは、CICが有力な外部組織とパートナーシップを結んで活発なイノベーション・プログラムを実施し、様々なメンバーの参画を促しています。この運営体制の運営方法の一つとして、CICは独自のネットワーク構築のノウハウを活かし、どのように運営するのが最適化か、パートナーに助言を提供します。



**COSMIC  
HUB**

OPERATED BY:  
THE POLISH  
SPACE AGENCY  
(POLSA)



**IOE  
HUB**

OPERATED BY:  
LODZ SPECIAL  
ECONOMIC  
ZONE



**PROPTECH  
HUB**

OPERATED BY:  
PROPTECH  
FOUNDATION

# グローバルな成長： CIC TOKYO



CICにとってアジア初の拠点であるCIC Tokyoは、2020年10月に虎ノ門にオープンしました。日本最大のイノベーションセンターとして大きな期待が寄せられ、小池百合子東京都知事をはじめ、平将明衆院議員や五神真東京大学総長(当時)などの来賓を迎え、盛大に開設を祝いました。

CIC Tokyoは、虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーの15階と16階に位置しており、250社以上が利用できる6,000m<sup>2</sup>以上のワークスペースがあります。





## Venture Café Tokyo

CIC Tokyoは、日本におけるイノベーションの創出をミッションとしています。そのため主要な活動の一つが、2018年3月から活動を開始しているVenture Café Tokyoとのパートナーシップです。Venture Café Tokyoは誰もが無料で参加できるイベントプログラムを提供し、参加者が東京のイノベーション・エコシステムと繋がり協働関係を築く機会を設けています。中心となる活動は毎週木曜日に開催されるThursday Gatheringであり、スタートアップや成長中の新ビジネス、企業、投資家、行政機関、およびコミュニティメンバーが、パネルディスカッションへの参加やネットワーキングの機会を求めて集まります。





## 伝統に根差した、イノベーティブなデザイン

新たなセンターを設計するにあたり、CICは数々の受賞歴を持つ建築家の小堀哲夫氏に、新しい働き方を促す工夫やイノベーションを触発するための画期的なデザインを取り込んだ、ユニークなワークスペースを創っていただきました。そのユニークさの象徴ともいえる「ROJIコーナー」は、長年かけて街角に形成

されていく日本の裏道をイメージした、いびつで奥まった雰囲気の話スペースとなっています。まっすぐな通路が並ぶ従来のオフィススペースとは対照的に、CIC Tokyoは人と人との繋がりを重視し、仲間と談話を楽しみながらアイデアを出し合える場所としてデザインされています。



## CIC TOKYOハイライト

### CIC LIVE

CIC LIVEは、CIC Tokyoが地域のコミュニティの協力を得ながら運営しているオンラインメディアです。ビジネスやテクノロジー、文化など、多岐にわたる内容で、一回につき45分間の番組を平日毎日お届けしています。

CIC LIVEというディスカッションやインタビューを中心としたオンラインメディアには、これまで起業家や政府関係者、各業界のエキスパート、東京のビジネス界で活躍されている方などさまざまなゲストをお招きして、スタートアップやルールメイキング(規制の制定・緩和・活用)、サステナビリティ、エンターテインメント、大企業のイノベーションなどについてのお話をいただいています。



# グローバルな成長： 国境を越えた協力体制

国際化とテクノロジーの進展により、世界中の人々と簡単にやりとりできる時代となりました。それでも、遠く離れた国や地域でビジネスを行うのは想像以上に難しいものです。

CICでは、異なる文化や言語、時差のなかで、国境や地域の枠を越えたコラボレーションを促進するために、支援プログラムを用意しています。

## CIC MiamiのInternational Soft Landing Program

CIC Miamiが、MIT(マサチューセッツ工科大学) Enterprise Forumとのパートナーシップのもと運営しているSoft Landing Programは、スタートアップ、政府機関や社内ベンチャーに向けた支援の仕組みです。世界各地にあるCICのコミュニティの繋がりを活かしながら、アメリカ市場への参入、そして、アメリカ国内での企業としての成長を後押しします。

## GENOSUR

International Soft Landing Programの開始当初からの利用者であるGenoSURは、2019年にチリからマイアミへと事業を拡大し、パンデミックが始まって以降は新型コロナウイルスの検査キットのビジネスとしてピボットしました。

チリ政府はチリにおける分散型の検査の推進に向けてGenoSURのテクノロジーを採用しました。結果として100万回分の新型コロナウイルス検査キットがGenoSURより供給されています。また、同社は毎月最大30万回分のポータブル型の新型コロナウイルス感染症検体採取キットおよびキットを搬送するための器具を製造する設備を、マイアミのデイド郡に設置しました。





## CIC Japan Desk

CIC Japan Deskは、私たちの本拠地であるCIC Cambridgeを拠点に、日本とボストンのイノベーション・エコシステムの橋渡しに努めています。2020年は日本貿易振興機構（JETRO）と協力して、Japan Innovation Programと呼ばれる、日本のライフサイエンスとヘルスケア分野のスタートアップに向けたトレーニングプログラムを創設しました。

**このプログラムでは、3か月間にわたりスタートアップ約20社に対してそれぞれのニーズに合わせたメンタリングやピッチ支援、およびネットワークワーキングの機会を提供し、マサチューセッツ州のエコシステムとの橋渡しを行いました。**

この集中支援プログラムは、日本のスタートアップが十分に準備をしてボストンのビジネスパートナーや投資家と会えるようサポートします。私たちはこうした活動が最終的には日本とアメリカのビジネス関係の強化に繋がっていくものと期待しています。

---

## Soft Landing Hub Poland

Soft Landing Hub Polandは、CIC WarsawとVenture Café Warsawの協力により生まれたプログラムで、外国籍企業がポーランドを拠点にビジネスを成長させていけるよう支援を提供しています。EYの協力のもと、準備段階から拠点の開設、確立、そしてビジネス拡大まで、全ての段階における包括的なサポートを提供しています。2020年に開始後、既に24社に支援を提供しました。





# バーチャル空間 での集い

イベントを催すことは、「イノベーターを繋ぐ」というCICのミッションを遂行するうえで非常に重要です。CICではワークショップやピッチナイト、ハッカソンなどさまざまなイベントを開催し、私たちのコミュニティと地域のコミュニティの交流をはかっています。多くの方に、知識を共有しながらスキルを身に付け、意義ある関係を築いていただくために取り組んでいます。

2020年は、新型コロナウイルスの蔓延により対面型の集まりの開催が難しくなりました。パンデミックになって誰もが気づいたのは、これまでとは違うイノベティブな繋がり方が求められているということでした。CICでは、イベントをバーチャル型、および対面とバーチャルを組み合わせたハイブリッド型に素早く切り替えました。バーチャルでの開催では思い通りにならない点もありますが、バーチャルだからこそできることもあり、多くの参加者からより多くの人との繋がりをより感じる事ができたという声が寄せられていました。世界中の人と繋がれるうえ、わざわざ出かけずにすむので、体が不自由な方や小さなお子さんがある方、周りの交通機関が稼働していない方でも気軽に参加できます。こうしたバーチャルの利点を活かしたイベントを、パンデミックの終息後も続けていくつもりです。

## コミュニティイベントの紹介

### Give Miami Day

CIC Miamiでは、世界中のバーチャルのオーディエンスを巻き込み、地域のビジネスを支援するハイブリッド型のイベントを開催しました。40人の対面参加者とバーチャルの参加者が一緒になり、マイアミ・デイド郡にある数々の非営利団体について学ぶというものでした。どの団体も、限られた資力と人力でやりくりしながら、地域の人々にモノやサービスを提供しています。

参加者に、それぞれが重要だと感じるプロジェクトや団体を見出し寄付してもらうことができました。このイベントを通じて3万3千人の方々から1800万ドルの寄付が集まりました。

### コロナ禍中での クリエイティブな資金調達方法

CIC ProvidenceはSalem Capital ManagementとUpper90、Utilidataと協力し、新しいビジネスや成長中の企業の資金調達をどうクリエイティブにサポートするかについて、パネルディスカッションを開催しました。パネリストは、コロナ禍の終息後にも使える成長のための資金調達のためのイノベティブな方法についてのアドバイスしています。

このイベントの初回が成功したことから、今後もCIC Providenceが立地するロードアイランド州のスタートアップ・コミュニティのための定期的な開催されることになりました。

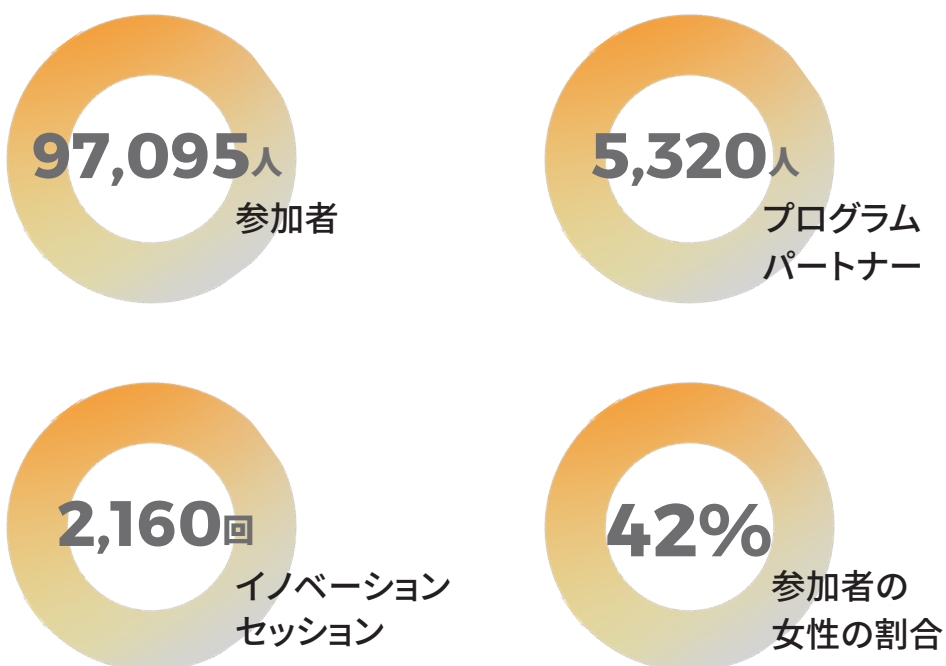
# Venture Café Global Institute

CICの非営利活動のパートナーVenture Café Global Instituteは、2020年のこれまでにない状況下でも、活動目的や拠点地を軸に共通項のある人々が集め、関わりを深めてきました。同団体が世界各地で運営するVenture Caféは各地のCICのセンター内にあり、昨年もCICとともにコミュニティにとって重要な課題をテーマとしたイベントを開催しました。テーマの例としては、人種差別問題、ヘルスケア、気候変動といったものがあり、未来の街づくりについて新たな議論も行われました。Venture Caféのおかげで世界各地のイノベーション地区で働く人々が交流して学び合い、コロナ禍での苦労を分かち合うことができたと言えるでしょう。

2020年は、Venture CaféのAmbassadorの活躍がとりわけ注目を浴びました。Ambassador達はコミュニティのメンバーがバーチャル空間や対面での会話を通じて繋がりを維持できるよう、とことん尽力してくれました。特に、勉強や仕事、住宅などあらゆる面でパンデミックの直撃を受け、十分な社会経験を得られずにいる学生たちに出会いの機会を提供しようと頑張ってくれたのは有難いことです。

Venture Caféは、引き続き毎週木曜日にThursday Gatheringを開催しています(Venture Café TokyoのThursday Gatheringは毎週木曜夕方よりCIC Tokyoで開催)。スタートアップやアントレプレナー、研究者、投資家などからなるイノベーション・コミュニティが一堂に会し、新たな出会いを通じて何かが起きよう活動しています。詳しくは、[venturecafe.global.org](http://venturecafe.global.org)をご覧ください。

## 数字で見るVENTURE CAFÉの2020年の活動



世界各地  
Venture  
CICと協  
強化に努



他のCICセンター内に所在する9つの  
e Café はVCGIネットワークとして、  
力し、イノベーション・エコシステムの  
務めています。



**VENTURE CAFÉ**

**GLOBAL**

# 社会を 変えていくために

## 多様性、公平性、包括、帰属意識

(DEIB:ダイバーシティ、エクイティー、インクルージョン、ビロンギング)

2020年は、人種差別による暴力や、個人の表現や選択の自由の制限といった問題が如実な形で浮き彫りになった年でした。私たちをとりまくコミュニティが社会システムに由来するこうした問題や不正義に立ち向かう中で、CICはダイバーシティ(多様性)、エクイティー(公平性)、インクルージョン(包括)、ビロンギング(帰属意識)の向上に組織として、取り組むべきコミットメントを一層強化しました。

CICでは、注意深く迅速に、そして一貫性を持った行動をとることを決め、CIC全体での取り組みと各拠点レベルの取り組みの両方を行うことにしました。

人種差別のない職場を築いていくための第一歩として、CICでは組織の陣頭に立つリーダーがまず集中トレーニングに参加し、差別意識や様々な社会的アイデンティティ、多様なバックグラウンドを持つ人々と共に働く方法について深く学びました。CICは、このトレーニングをもとに、人種や性別、セクシュアリティ、能力、文化的背景などが多様なメンバーから構成される「DEIBアドバイザー・コミティー」を組織しました。DEIBはダイバーシティ、エクイティー、インクルージョン、ビロンギングの頭文字であり、同コミティーは2021年以降、CICにおけるDEIBの取り組みを推進・評価して行くことになります。





## ロッテルダムの取り組み:「ダイバーシティ憲章」

CIC Rotterdamは、2020年12月に「ダイバーシティ憲章」を採択しました。この憲章は、欧州で既に1万以上の署名を集めてます。憲章の採択は、ダイバーシティとインクルージョンを向上することへのCIC Rotterdamのコミットメントの証とも言えます。憲章を採択している他の企業と同じく、CIC Rotterdamも職場でのDEIB促進にむけたゴールを自らたてていくことになります。その一環として、入居者の中で**女性の起業家**が占める割合を**2022年までに現在の12%から最低20%まで引き上げる**ことを目指し、そのためのさまざまな取り組みを行っていく予定です。

## フィラデルフィアでの「36for75」プログラム

CICと同様に、世界の問題をイノベーションで解決しようとしている起業家はフィラデルフィア地域にも大勢います。CIC Philadelphiaでは、その中から毎年36人を選び、75日間にわたり無料のサポートを提供しています。この「36for75」と呼ばれるプログラムは、多様な起業家のコミュニティを築くこと、そして必要な情報や資源、コネクションおよび働くスペースを提供してイノベーション活動や協働を促すことを目的としています。CICはこのプログラムをパンデミックの最中にも導入し、バーチャルのイベントプログラムやデジタルによる交流をはかってきました。2020年度の参加者の61%は恵まれないエリアやマイノリティの出身です。また44%は社会に大きな影響を与えることが期待されるプロジェクトに取り組んでおり、CICのDEIB向上に向けた努力が実る結果となりました。

## LGBT+ Diamonds Awards

CIC Warsawは、「LGBT+ Diamonds Awards」において「Supporting Employer of the Year(今年最も従業員をサポートした)」分野にノミネートされました。同賞は、ポーランドでLGBT+の社員の仕事環境改善に尽くす人々や組織に授与されるものです。CICはLGBT+のコミュニティと連携して、誰もが歓迎されていると感じられる職場作りに尽力しています。その一環として、トランスジェンダーの従業員や入居者が権利を侵害されることなく安全に働けるよう、運営規定にさまざまなプロトコルを盛り込んでいます。その例として、性別を問わないトイレの設置や、無性別・ジェンダー共有のトイレにおける生理用品の無料配布、全てのジェンダーを包摂するための言葉遣いやポリシーの設定があげられます。



---

### St. Louisにおける優れたパートナーシップ

CIC St. Louisでは、多様なバックグラウンドを持つ人々にコミュニティに参加し仲間となってもらえるように、年間を通じて数々な企画に取り組んでいます。昨年は、CIC St. Louisのスペースを、社会的ミッションを持った組織やプログラムに無料またはディスカウント料金で提供しました。こういった取り組みを通じ、CIC St. Louisの運営チームは、DEIBのゴールに向けて多くの活動を展開することができました。活動内容は下記の通りです：

**Venture Café St. Louis**の教育の機会均等化プログラムである**EdHub**との提携；**WEPOWER**と呼ばれる黒人やラテン系の起業家を対象としたアクセラレータープログラムへのスペースの提供；地域における人種間の教育の差の問題に取り組む**Education Equity Center of St. Louis**の活動の支援；若い黒人女性の教育・支援に励む**The Sophia Project**へのミーティングスペースの提供；新しく立ち上げられた**Black Squares**という団体と、CICの入居企業である**Dream Builders 4 Equity**と共に黒人の子供たちへのチェスの指導を提供。



# 我々のコミュニティメンバーが 生み出す社会的インパクト



## ARO BIOTHERAPEUTICS

フィラデルフィア

CIC Philadelphiaに拠点を置くAro Biotherapeuticsは、希少遺伝性・免疫疾患患者に対して効果的・安全な治療を確立すべく、新たなレセプターをターゲットとした遺伝子治療の開発に取り組んでいます。同社は、2020年度の研究結果が実り、8千8百万ドルのシリーズA資金調達を成し遂げました。これにより、同社のCentyrinプラットフォームを活用した治療の臨床開発を開始させることが可能になります。近くにいくつもの大学があるCIC Philadelphiaの立地条件は、Aro Biotherapeuticsが人材を見つける上でも役に立ちました。Aro Therapeuticsでは、インターンに加え、就労と学習を組み合わせさせた大学のCo-opプログラムに参加する学生を雇用しています。また、同社の運営コアチーム27名のうち6名は、地元の大学の卒業生です。

## FORLOGISTIC

ワルシャワ

CIC Warsawの入居企業であるForLogisticは、1年前は共同創設者2人がハッカソンで勝ちとったコワーキングスペースで仕事をしていましたが、今では6人からなるチームが25万ドルのシード資金をもとにCIC Warsawに拠点を置くまでに成長しました。このポーランドのスタートアップは、共同倉庫(co-warehousing)のオーナーとテナント希望者が手早く繋がり商談をまとめるためのマーケットプレイス・プラットフォームを開発・運営し、不動産業界における商業用スペースの在り方を変えようとしています。同社は2021年中頃までに300,000m<sup>2</sup>近くの倉庫スペースを取り扱い、顧客数を100にまで増やすことを目指しています。



## BLACK AND MOBILE

フィラデルフィア

Black and Mobileは、黒人が経営するレストランの作る食事に限定してデリバリーを行う、アメリカ初の黒人が創業したデリバリーサービス企業です。同社は、社会的ミッションを掲げる起業家を支援するCIC Philadelphiaの36for75プログラムに選ばれました。同社は、自社のテクノロジーを使って、恵まれない環境にあった事業者が近年の経済の荒波に耐えて競争できるようにしようとしています。地域における雇用の拡大も同社のゴールのひとつです。同社はCICに入居してからこれまでに、新たに200人の配送スタッフの雇用を産み、アトランタやバルティモア、デトロイトでのサービス提供を始めました。



「CICにいると成功した気がします。やっと本拠地と呼べる場所ができたと感じるので、36for75プログラムのキックオフイベントでは、私と同じく黒人でソフトウェアのデザインとコーディングをしている参加者に出会えました。私にとってこの繋がりはお金よりも尊いものとなりました。

— David Cabello, Black and Mobile

## HARBOUR ANTIBODIES

ロッテルダム | ケンブリッジ



腫瘍と免疫の分野を専門とするHarbour Antibodiesは、2018年にCIC RotterdamとCIC Cambridgeに入居し、地域の起業エコシステムと繋がり始めました。それから数年後、現在では同社はパンデミックによって生まれた新しいニーズに応え、新型コロナウイルス感染症の症状を和らげ感染を防ぐ抗体を、独自の技術を用いて開発しました。同社はその後SARS-CoV-2 ウイルスの感染力をなくす抗体を、実用化に向けてAbbVie社にライセンスしました。そしてHarbour Antibodiesは2020年の終わりに上海の株式市場に上場しました。



## WEPOWER

セントルイス

CIC St. LouisのメンバーであるWEPOWERは、行動力あるコミュニティを育成することで、教育や経済、ヘルス、司法の制度改革を進めていこうとしています。同団体は、Elevate/Elevar Acceleratorと呼ばれる、黒人とラテン系の起業家を対象とした6か月間の事業開発プログラムを開始しました。このプログラムは、コーチングとメンタリング、ホリスティックウェルネス、および助成金という3つのポイントに重点をおいています。その結果として、Elevate/Elevar Accelerator参加者の収入は平均で350%増加しています。また、参加者が集めたシード資金は合計で40万ドルにのぼり、60%の参加者は既に最初の従業員採用を行っています。

# 感謝をこめて



本レポートの作成にご協力くださった皆さまへ、心よりお礼申し上げます。CICの入居企業やスタッフに毎日支えてもらい、何事も協力なくしては成り立つものはないと痛感しています。

## **CREATIVE TEAM**

---

### **COPY WRITING & EDITING**

Naomi Berlin  
Sarit Luban  
Georgie Mills

### **DESIGN**

Joey Lindsey  
Nina van den Broek

### **WEB DESIGN**

Alex Graziano

## **LEADERSHIP TEAM**

---

### **FOUNDER & CEO**

Tim Rowe

### **PRESIDENT**

Brian Dacey

### **CHIEF FINANCIAL OFFICER**

Dawn Neher



## LEADERSHIP TEAM (CONT'D)

---

### CHIEF PEOPLE OFFICER

Vanessa Brown

### VICE PRESIDENT, NORTH AMERICA

Sarah Morin

### VICE PRESIDENT, EUROPEAN & ASIAN CENTERS

Melissa Ablett

### VICE PRESIDENT, GLOBAL EXPANSION & CORP. DEV.

Sarah Delmar

### VICE PRESIDENT, GLOBAL FINANCE

Kyle Tremble

## 写真

---

CICが運営するスペースの写真は、全てCICの所有物です。撮影はプロのカメラマンやボランティアの方々によって行われました。クライアントのプロフィール写真は、注意書きがない限り、当事者からのご厚意で提供されたものです。

CICの「グローバル・インパクト・レポート2020」はCICによる特別刊行物です。書面による正式な許諾なく、全部または一部を複製することは禁止されています。



cic

COVID-19  
TESTING

IN KENDALL SQUARE

245 Main Street  
Cambridge, MA

cic  
Health

PCR Test

\$80

cic-health

KENDALL  
OUTBOUND

TOW ZONE  
NO  
STOPPING  
STANDING

23

80





**GLOBAL IMPACT REPORT**  
2020